

平成28年度
北方四島交流訪問事業報告書
(国後島・色丹島)

平成28年7月21日(木)～7月25日(月)



→7月23日<国後島>
住民交流会「柔道教室」



7月24日<色丹島> →

スポーツ交流「ヨーヨー」

北方領土返還要求大分県民会議

目 次

1	はじめに	1
2	日程概要	2
3	行程実績	3
4	団員名簿	5
5	団長報告	6
6	副団長報告	8
7	事業記録	
	(1) 第1日目 平成28年7月21日(木)	11
	(2) 第2日目 7月22日(金)	13
	(3) 第3日目 7月23日(土)	16
	(4) 第4日目 7月24日(日)	18
	(5) 第5日目 7月25日(月)	21



えとぴりか号

1 はじめに

この度、図らずも大分県民会議が中核として本事業に関わることとなり、責任の重みを感じ実施したところであります。

「北方四島交流事業」は、平成3（1991）年当時のソ連の最高首脳として戦後初めて来日したゴルバチョフ大統領の提案に基づいて平成4（1992）年から開始され、本年度で25年目を迎えております。この目的は、北方領土問題解決に向けた環境整備にあります。これまで四半世紀の積み上げを大切にし、未来を見据えた事業としたいと考えておりましたが、70年かけても解決しない問題が、我々の5日間ですぐに解決するものではありません。環境整備の一助となる交流や視察ができればと考え、さらにその活動を通して、友好と信頼の関係が少しでも高まればとの思いで、団員一同本事業に参加いたしました。

今回参加した団員は、日本の各地から、地域、世代、職域を超えて総勢60名で編成されています。団員には、平素各都道府県で返還運動に携わっている方はもちろん、国会議員の先生方や元島民の皆様やその家族の方も含まれています。

ここに、本訪問団の訪問の様子を記録し報告することで、今後の本事業の推進に少しでも役に立てばとの思いで、報告書を作成いたしました。さらに、今回参加した団員は、今回の訪問で体験したこと、考えたことをそれぞれの地域で、職域で、機会あるごとに報告の義務があろうかと思えます。その際の記録としても役に立てばとの思いもあります。

この報告書が、今後役立つことを期待して、団長・副団長が中心となり作成いたしました。

平成28年8月



（今回のスタッフとして参加した大分県民会議の団員）

2 日程概要

月 日	行 程(日本時間)															
	7:00	8:00	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00	20:00	21:00	22:00
7月21日 (木)	9:0014:45 16:0016:2017:20通過点19:25古釜布湾着 結団式・事前研修会 北海道立北方四島交流センター(ニホロ) 出発式乗船・出港船内泊 根室港えとぴりか国後島															
7月22日 (金)	10:20~10:55「行政府・議会」訪問(代表者) 8:158:359:159:3012:0012:1016:5017:15 入域手続上陸到着・休憩・昼食島内視察帰着団員交流友好の家泊 えとぴりか古釜布港友好の家学校正教会保育幼稚園図書館墓参商店国後島															
7月23日 (土)	7:159:009:2511:1511:2012:1012:1515:0015:1516:2016:5522:05穴澗湾着 島内視察体験住民交流会昼食ホームビジット夕食交流会 消防署人形作り文化会館友好の家12家庭友好の家えとぴりか船内泊 色丹島															
7月24日 (日)	7:107:207:409:059:4010:1010:4011:4511:5514:5015:1016:3517:1021:35古釜布湾着 上陸「行政府」幹部訪問スポーツ交流島内視察昼食島内視察夕食交流会 穴澗港文化会館墓参レストラン図書館発電所学校消防署商店レストランえとぴりか船内泊 国後島															
7月25日 (月)	(以後、予定) 7:008:308:459:25通過点10:5011:4512:0012:4513:30 出域手続・出港解団式航行入港・下船解散・記者会見(代表者) えとぴりかえとぴりか根室港千島会館															
	7:00	8:00	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00	20:00	21:00	22:00

3 行程実績

(日本時間)

7月21日(木) 天気：曇りのち晴れ
※ 9:00～14:45 結団式・事前研修会〔北海道立北方四島交流センター(ニホロ)「交流ホール」〕
〔結団式〕
○主催者挨拶 (北方領土問題対策協会理事 水越ゆかり)
○来賓挨拶 (根室市長 長谷川俊輔氏)
○団長挨拶 (大分県民会議 渕野暢浩氏)
〔事前研修会〕
○北方四島交流について〔政府同行者(内閣府・外務省)〕
○オリエンテーション(事務局)
○講演「海から見た北方領土問題」(山田吉彦氏 東海大学海洋学部教授)
○講話「元島民が語る北方領土」(得能 宏氏 色丹島・斜古丹村出身)
○住民交流会の進め方について(スポーツ交流、意見交換会)
16:00 出発式
16:20 根室港(琴平町岸壁)出港
17:20 通過点(N43° 28' / E145° 46')
19:25 国後島・古釜布湾着、投錨(船内泊)

7月22日(金) 国後島1日目 天気：曇り
7:15～8:15 入城手続き、事務打合せ
8:35～9:15 国後島上陸(2グループで上陸)
8:55～9:30 「友好の家」へ移動、チェックイン
10:20～10:55 「行政府・議会」訪問(ソロムコ「南クリル」地区長)(団員代表者)
11:00～12:00 昼食(友好の家)
(AとBグループに分かれる)
Aグループ
12:10～12:55 小中高等学校視察(説明：タチヤナ校長)
13:00～14:05 「命をたもう至聖三者」正教会見学(説明：アレクサンドル司祭)
14:15～14:40 「アリョンカ」保育幼稚園視察(説明：オリガ園長)
14:50～15:25 アレクサンドル・マンドリク記念図書館視察
(説明：サビーロワ名誉館長、ソジノワ館長)
Bグループ
12:10～13:10 「命をたもう至聖三者」正教会見学(説明：アレクサンドル司祭)
13:15～14:00 小中高等学校視察(説明：タチヤナ校長)
14:05～14:50 アレクサンドル・マンドリク記念図書館視察
(説明：サビーロワ名誉館長、ソジノワ館長)
15:00～15:20 「アリョンカ」保育幼稚園視察(説明：オリガ園長)
(A Bグループ合流)
15:35～15:55 古釜布墓地墓参
16:10～16:50 商店視察
17:15～18:15 夕食(友好の家)

7月23日(土) 国後島2日目 天気：曇り
5:45～7:00 朝食(友好の家)
(AとBグループに分かれる)
Aグループ
7:15～7:45 消防署視察(説明：セルゲイ隊長代理)

8:15～ 9:05 布人形作り体験(体験指導：マリア氏) (友好の家)
 Bグループ
 7:15～ 8:15 布人形作り体験(体験指導：マリア氏) (友好の家)
 8:25～ 9:00 消防署視察(説明：セルゲイ隊長代理)
 (A Bグループ合流)
 9:25～11:15 住民交流会(文化会館)
 9:25～10:10 ①空手演舞(島側)・柔道教室(訪問団側)
 10:20～11:15 ②意見交換会(テーマ：家族の価値観／3グループ)
 11:20～12:10 昼食(友好の家)
 12:15～15:00 ホームビジット(12家庭)
 15:15～16:20 夕食交流会(友好の家)(ヴィシロワ「南クリル」地区副議長ほか)
 16:55～17:40 はしけ移乗、帰船(2グループ)
 17:45 色丹島・穴澗湾に向け出航(船内泊)
 22:05 色丹島・穴澗湾着、投錨

7月24日(日) 色丹島 天気：晴れ

7:10～ 7:20 穴澗湾棧橋に着棧・下船
 7:40～ 8:10 「行政府」幹部訪問(メトコ穴澗村長、ゴンチャローワ斜古丹村副村長)
 8:20～ 9:05 スポーツ交流(ヨーヨー)
 9:15～ 9:35 斜古丹へ移動
 9:40～10:10 斜古丹墓地墓参、「北方領土語り部」得能氏による在島当時の説明
 10:10～11:45 穴澗へ移動、昼食(レストラン「インペリアル」)
 (AとBグループに分かれる)
 Aグループ
 11:55～12:25 図書館視察(説明：イスポワ司書)
 12:35～12:55 発電所(人道支援)視察(説明：ワシレンコ発電所所長)
 12:55～13:35 小中高等学校訪問(説明：ワシレンコ校長代理)
 13:40～14:00 消防署視察(説明：イワン班長)
 Bグループ
 12:00～12:20 発電所(人道支援)視察(説明：ワシレンコ発電所所長)
 12:35～13:05 図書館視察(説明：イスポワ司書)
 13:10～13:35 消防署視察(説明：イワン班長)
 13:45～14:10 小中高等学校訪問(説明：ワシレンコ校長代理)
 (A Bグループ合流)
 14:05～14:50 商店視察
 15:10～16:35 夕食交流会(レストラン「インペリアル」)
 17:10 帰船
 17:25 国後島・古釜布へ向け出港
 21:35 古釜布湾着

7月25日(月) 天気：曇り

(以後、予定)
 7:00～ 8:30 出域手続、事務打合せ(船内)
 8:30 根室港へ向け出航
 8:45 解団式
 10:50 通過点(N43° 28' / E145° 46')
 12:00 根室港(琴平町岸壁)入港、事務手続、下船
 12:45 解散(千島会館)
 13:00～13:30 代表者記者会見(千島会館)

4 団員名簿

氏 名	住 所	備 考	氏 名	住 所	備 考
湊野 暢浩	大分県	団長	西山 智子	長崎県	
三ヶ尻 隆志	大分県	副団長	上原 裕子	宮崎県	
田畑 裕明	東京都	衆議院議員	宗村 好信	鹿児島県	
江崎 孝	東京都	参議院議員	田本 彩菜	沖縄県	
藤本 祐司	東京都	参議院議員	得能 宏	北海道	北方領土語り部・元島民（色丹島）
田中 健二	東京都	学識経験者	齋藤 政仁	愛知県	元島民2世（国後島）
山田 吉彦	東京都	学識経験者	上内 礼彩	東京都	元島民3世（国後島）
野川 政文	山形県		漁 豊	神奈川県	元島民2世（多楽島）
小林 清美	福島県		田村 修一	千葉県	元島民（国後島）
成澤 勝蔵	福島県		濱田 秀夫	東京都	元島民（国後島）
大森 治夫	茨城県		牧 賢司	東京都	
□池 崇	東京都		白倉 純	東京都	
青木 和男	長野県		佐藤 智典	東京都	
野村 康幸	富山県		勝沼 太志	東京都	
五十川 員申	石川県		佐々木 盛	医師	市立根室病院
宮西 健吉	石川県		矢岡 亮一郎	東京都	報道
奥本 智礼	三重県		森藤 千恵	東京都	報道
千住 啓介	兵庫県		小野 晋史	千葉県	報道
西浦 重明	奈良県		梅田 啓祐	東京都	報道
小倉 弘行	岡山県		熊見 直子	通訳	
渡邊 吉幸	岡山県		稲本 智佳子	通訳	
福本 アヤ子	広島県		佐藤 史郎	通訳	
足立 明弘	大分県		依田 由加子	通訳	
奈良 剛史郎	大分県		尾崎 奈美	通訳	
前田 信治	大分県		□□ 初音	通訳	
河原 晃永	大分県		水越 ゆかり	事務局	
木野田 哲理	大分県		渡邊 憲司	事務局	
川内谷 一志	大分県		梶原 慎吾	事務局	
増田 翔太郎	大分県		中村 幸志	事務局	
竹内 裕二	福岡県		佐藤 憲	事務局	

【計60名】

5 団長報告

団長 瀧 野 暢 浩
大分県民会議会員
大分県北方領土教育研究会会長

私の返還運動との出会いは、平成16（2004）年9月、教育者として国後島を訪問したことから始まる。その時の中標津空港から根室行きのバスの中で隣に座ったおばあさんとの会話が、北方領土返還運動を身近なものとしてくれた。おばあさんの家庭は、熊本県が父祖の地であり、お父さんが私の地元大分県の久住連山の一角の硫黄山にあるマッチ工場で働いており、その会社の関係で同じ硫黄のとれるマッチ工場のある国後島に転居し、戦後根室で暮らしているとのことであった。九州から見れば遠い北海道の東端の地のことと考えていたが、何となく身近に感じられたものだった。九州に帰らないのですかと問うと、私の帰りたいのは、逆の方向ですと寂しそうな微笑みをしたことを鮮明に覚えています。

また、当時訪問した国後島の景色も忘れることができません。

その後、県内で教育者研究会の会長を務めることとなり、国後島を訪問した者たちから島の変化の様子を聞くにつれ、もう一度訪問したいと思って今回参加した次第です。

団長の重責を十分理解し、果たし得たかは甚だ疑問ではありますが、事実を事実として記録し、報告することで今後に少しでも役立てばと思い報告書をまとめました。

特に、団長として、結団式で団員に本事業の趣旨等の共通理解のための団長挨拶や「行政府」での団長の公式な挨拶内容を報告することで、今後の参考としていただきたい。



（１）結団式団長挨拶

全国各地から、いろいろな職種や立場からの本事業への参加である。さらに、本事業の究極の目的である「北方領土返還」に資するためには、本事業にどのような心づもりで参加するかを共通理解しておくことがなにより重要である。以下、共通理解の内容の要旨を報告する。

- ① 最終的な目的は「北方領土返還」。それぞれの立場や角度からこの問題に多くの人が長時間取り組んできている。本事業は、その一環であり、本事業の行動目標は「交渉」ではなく「交流」である。交渉はあくまで政府間で行うことであり、民間レベルの我々は責務が違ふとの認識を。
- ② 「交流」と「視察」を通して、次にめざす獲得目標は「友好」と「信頼」である。市民同士の対話や交流を通して「環境整備」を行う。これまでの25年間の積み重ねのうえに今日があることを十分自覚すること。
- ③ 我が国の立場や国益を考えた行動や言動を行うこと。入国や出国などの表現でなく、入域や出域という意識を。
- ④ 安全確保のための団体行動・マナーの厳守。観光団ではない。

⑤ 事業終了後、それぞれの立場で「報告」「啓発」に努める。そのための事業であり、自覚と準備を行うこと。

（２）「行政府」等訪問時の団長挨拶

公式な場で団長として挨拶する際、私見に囚われることなく、日本を代表する団としての挨拶であり、あの場ではこう言い、この場ではこう言ったのでは職責は果たせないと考え、予め北対協の意見や過去の団長の挨拶を参考にしながら、以下のとおり挨拶を行った。



国後島

○今回の訪問団は、日本各地から、地域、職域、世代を超えて、総勢60名が全国各地から訪れている。団員には国会議員の先生方、この島で生まれ育った日本人島民やその家族などが含まれている。

○1992年から始まった四島交流事業も25年目を迎え、これまでに双方で訪問した人数は2万1千人を超え、日本人と北方四島住民との相互理解も年々深まっている。

○申すまでもなく、日本とロシアとの間には解決しなければならない領土問題がある。両国においては、問題解決に向けて外交交渉が精力的に行われており、私たちは、この問題が一日も早く解決することを強く願っている。

○外交交渉は国に委ねるとしても、私たちは交流を通じて信頼と友好を一層深め、市民レベルでも領土問題を考えていくことが解決に繋がるものと確信している。

○島での滞在は短い時間ではあるが、できるだけ多くの島民と交流を深め、今回の訪問を実りあるものにしていきたいと考えている。

・国後島では、柔道六段で、ナショナルチームの指導を行ったことのある団員が「柔道教室」を披露することを考えている。

・色丹島では国内外で輝かしい実績のある団員が「ヨーヨー」のパフォーマンスを披露することを考えている。



色丹島

○本日はお忙しいところ歓迎をいただき、訪問団を代表しお礼申し上げます。

6 副団長報告

副団長 三ヶ尻 隆 志
大分県民会議監事
大分県推進委員

今回の北方四島交流訪問事業（国後島・色丹島）は、県民会議主体の船で、幹事県は、私の所属する九州・沖縄ブロックの大分県になりました。交流事業については、国後島では、大分在住でヨーロッパでも指導経験のある柔道家 川内谷一志（6段）氏の柔道の技の披露と柔道教室、色丹島では、大分在住で、ヨーヨーの世界ランクの増田翔太郎氏のヨーヨーのパフォーマンスとヨーヨー教室を計画し、島に住むロシア人の子供達も大変喜び、良い交流会になりました。

意見交換会では、「家族の価値観」について、3グループに分かれ意見交換をしました。

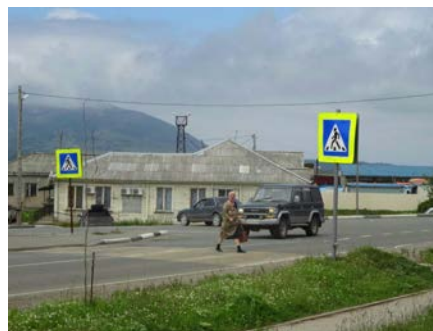
私は、平成22年度に九州・沖縄ブロックの鹿児島県が幹事県の時、スタッフとして参加しており、その時、ロシアは、「クリル社会経済発展計画」を掲げ、インフラ整備等に、資金を投入すると言っていたので、どれくらい変化したか、以前の写真と今回の写真とで、比較して報告致します。なお、同じ場所を同じ角度から比較することは困難であることを、予めご了承ください。

(1) インフラ整備

(友好の家の前)



道路 舗装されていない
標識 無し
歩道 無し

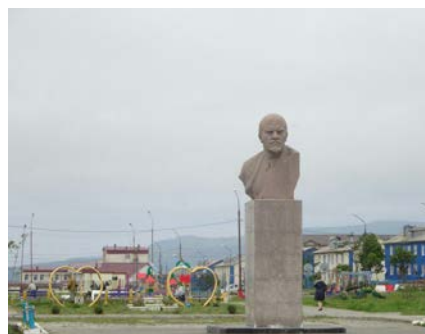


アスファルト舗装
交通標識・バス停
有り

(レーニン広場)



地面 土



コンクリート舗装

(2) 環境整備
(公園)



公園、遊具等はなかった。



新しく公園を造成、遊具有り

(学校)

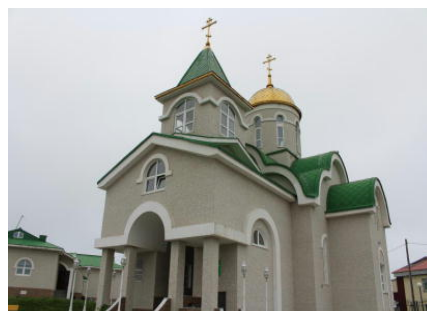


木造平屋建て



鉄骨二階建て

(3) 生活環境の変化
(教会)



新築

(商店街)



(住居)



この写真は、国後島の写真です。色丹島においても新しい建物が少しずつ建設されようとしていました。これは、ロシア政府が打ち出した「クリル社会経済発展計画」の影響だと考えられます。

また、子供支援対策（1人生まれれば、補助金がもらえる）により、いたるところに小さな子どもとその家族が見られ、遊具付きの公園や学校・保育園等も充実しており手厚いものだと感じられました。

それから、私が危惧するのは、「行政府」の表敬訪問で、ソロムコ地区長が、国後島に温泉を売りにした保養所型ホテルを建設し、ロシア人観光客を呼び込み、観光に力を入れていくとの発言があったことでした。

さらに、将来は、ロシア人以外の観光客も呼びたいと言っていました。

現在、島に住むロシア人は、3世代となっており、島外に進学した孫が、夏休みに島に帰ってくる故郷になっているそうです。

最後にこの訪問事業に関わっていただいた関係者の皆さま、訪問団員の皆さま、えとぴりかの乗組員の皆さま、大分県のスタッフに、心からお礼を申し上げ、私の報告と致します。

7 事業記録

(1) 第1日目 平成28年7月21日(木) 天気：曇りのち晴れ

※ 9:00～14:45 結団式・事前研修会

〔北海道立北方四島交流センター（ニホロ）「交流ホール」〕

〔結団式〕

- 主催者挨拶（北方領土問題対策協会理事 水越ゆかり）
- 来賓挨拶（根室市長 長谷川俊輔氏）
- 団長挨拶（大分県民会議 淵野暢浩氏）

〔事前研修会〕

- 北方四島交流について〔政府同行者（内閣府・外務省）〕
- オリエンテーション（事務局）
- 講演「海から見た北方領土問題」（山田吉彦氏 東海大学海洋学部教授）
- 講話「元島民が語る北方領土」（得能 宏氏 色丹島・斜古丹村出身）
- 住民交流会の進め方について（スポーツ交流、意見交換会）

16:00 出発式

16:20 根室港（琴平町岸壁）出港

17:20 通過点（N43° 28' / E145° 46'）

19:25 国後島・古釜布湾着、投錨（船内泊）

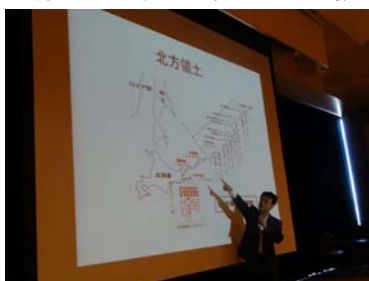


千島会館（集合）



北海道立北方四島交流センター（ニホロ）

●講演「海から見た北方領土問題」（山田吉彦氏 東海大学海洋学部教授）



学識経験者の立場から、中国やロシアと日本列島の経済的、軍事的な位置関係や今後予想される動き。特に、北方四島の現在と今後の位置づけについて講演をしていただいた。

これから実際にいく島の現在の様子等も予習することができた。

●講話「元島民が語る北方領土」

（得能 宏氏 色丹島・斜古丹村出身）

映画『ジョバンニの島』のモデルになった色丹島の元島民の得能さんの戦前・終戦時・その後の生活についての話を聞いた。そこにいなければわからないこと、体験



者だからこそその熱い思い。いろいろなことが団員に伝わったと思われる。

日本全体の問題として、若い世代の問題として考える必要性を説いている得能さんの言葉は重かった。

●住民交流会の進め方について（スポーツ交流、意見交換会）



スポーツ交流の進め方を説明するとともに、国後島での意見交換会の司会・記録・発表者等の役割り分担を3グループ毎に準備した。特に、討議の柱や意見の集約を行うことに時間がかかったが、団員同士の意見交流は親睦にも役立った。司会と記録を決めるのに時間をかけるのをなくすため、各グループとも大分県で引き受けた。

●出発式（根室港琴平町岸壁）



道庁や根室市から幹部が出発式に臨席していただいた。

えとびりか号は新造船で、荷物の積み卸しや高齢者にも配慮した機能を備えている。小型のフェリーのように快適な環境が確保されている。

また、これまでなかった風呂やきれいなトイレなども完備されている。

●船内活動（ロシア語学習・船内説明）

通訳の方から簡単なロシア語講座。「こんにちは」や「ありがとう」の言葉は、確かに会話の基本

快適な船だが、安全への協力も大切。船員の方から、丁寧な説明を受ける。ゴミの分別や水の使い方等、当然のことながら全団員で共通理解を持った。



●投錨（国後島・古釜布湾着）

古釜布湾に到着するまで、船はずいぶん揺れた。ほぼ全員酔い止めを飲んでいるので、船酔いのひどい団員はいなかったが、薬の影響か部屋で早々と寝ている団員が多かった。

平成12年に国後島に行ったときにはほとんどなかったが、今回は、船の中からも町の灯りが見て取れた。町の発展と拡大が予想される。



(2) 第2日目 平成28年7月22日(金) 国後島1日目 天気：曇り

- 7:15～ 8:15 入域手続き、事務打合せ
8:35～ 9:15 国後島上陸 (2グループで上陸)
8:55～ 9:30 「友好の家」へ移動、チェックイン
10:20～10:55 「行政府・議会」訪問 (ソロムコ「南クリル」地区長) (団員代表者)
11:00～12:00 昼食 (友好の家)
(AとBグループに分かれる)
- Aグループ
12:10～12:55 小中高等学校視察 (説明：タチヤナ校長)
13:00～14:05 「命をたもう至聖三者」正教会見学 (説明：アレクサンドル司祭)
14:15～14:40 「アリョンカ」保育幼稚園視察 (説明：オリガ園長)
14:50～15:25 アレクサンドル・マンドリク記念図書館視察
(説明：サビーロワ名誉館長、ソジノワ館長)
- Bグループ
12:10～13:10 「命をたもう至聖三者」正教会見学 (説明：アレクサンドル司祭)
13:15～14:00 小中高等学校視察 (説明：タチヤナ校長)
14:05～14:50 アレクサンドル・マンドリク記念図書館視察
(説明：サビーロワ名誉館長、ソジノワ館長)
15:00～15:20 「アリョンカ」保育幼稚園視察 (説明：オリガ園長)
(A Bグループ合流)
15:35～15:55 古釜布墓地墓参
16:10～16:50 商店視察
17:15～18:15 夕食 (友好の家)

●国後島上陸



これまでの経験から、入域に際して税関のような場所を通ることもなかった。訪問経験のある団員たちのほうが驚いていた。島側の締め付けのようなものを感じたのは私だけであろうかと思った。

●「友好の家」へ到着

現地の方の車に分乗し、友好の家に到着。ロシア人の女性が塩とパンを用意し、歓迎してくれた。友好の家は国後島における活動拠点。

周辺の道路や新築中のホテルなど、開発の状況に驚く。



●「行政府・議会」訪問

日本側は団員代表者、ロシア住民側はソロムコ「南クリル」地区長

現在、日本とロシアの関係はとても暖かい関係である。この関係を大切にしていきたいとの地区長の言は、ありがたかった。



ソロムコ「南クリル」地区長の説明の要旨

- ・主な産業は水産加工、今後観光等に力を入れたい。
- ・現在、サハリンと地元の建設会社で新築・改築に尽力
- ・交流25年、ビザなし渡航は大統領も支持している。
- ・日本のこれまでの人道支援に島民あげて感謝している。
- ・人口10900人、学校5校900人の子ども、425人の保育園児
- ・地区長も33年島に在住、島を故郷と考えている。

意見交換の概要

Q1：安倍首相とプーチン大統領の良好な関係で、日ロ間の今後の展望は？

A1：「クリル」の住民は肯定的、日ロ間の関係に関心は高い。今後矛盾のある関係の解決は可能であると考え。 「クリル」の発展に日本も寄与してもらいたい。

Q2：四島について日本側が領有権を主張していることに対する考えは？

A2：ここはロシアの領土、ロシアに帰属する。

●小中高等学校視察

タチヤナ校長に説明してもらった。現在、夏休み中

- ・「南クリル」地区小中高等学校、11年制、生徒数500人
 - ・1～9年が義務教育、1～4年給食無料
 - ・1学級20～30人程度、24学級
 - ・卒業時100%共通試験合格、無料奨学金枠にも合格多数
- ※校長は島出身者。学校規模の拡大や卒業生も島に残るようになったとのこと。このあたりに変化が感じられた。



●「命をたもう至聖三者」正教会見学



アレクサンドル司祭による説明

- ・ロシアや島では正教会が主流、教会は2011～2012に新築
- ・住宅地の中心に、東を向いて教会は建てられる。
- ・鐘と鐘の音が大切にされている。
- ・島で生まれた子どもの洗礼もこの教会で行う。

●「アリョンカ」保育幼稚園視察

オリガ園長による説明

- ・「クリル社会経済発展計画」の一環で2011年開園、2～7歳
 - ・定員110名のところに136名を受け入れ、待機児童もいる。
- 他に新たに保育園を建設中
- ・国の子育て支援政策が充実している。
 - ・出生率や定住率は上向き
 - ・週5日、7:30～18:30開園、看護師・調理師も常駐

※施設の大きさや設備の充実度合いはこちらの保育園以上であった。子育て世代の定住に向けた政府の政策的な意図が感じられた。



●アレクサンドル・マンドリク記念図書館視察



- サビーロワ名誉館長による説明
- ・新館長に娘ソジノワさんが現在就任
 - ・文化ホール新築に合わせて移転
 - ・年間 2000 人の利用者
 - ・日本語の本やコーナーの充実
 - ・学校の教育課程に図書館利用



●古釜布墓地墓参

団員全員で墓参。墓標なき墓、遺骨なき墓ではある。しかし、この島に日本人が眠るという事実は、ここに日本人が住んでいた紛れもない事実であることを再認識した。ここに眠る日本人の冥福を祈る。

●商店視察



商店街が形成されており、10 年前は、ウォッカと冷凍の肉、缶詰とビン詰が並ぶ店という印象であったが、今回現地で見たものは、随分充実してきているなどの印象を持った。子ども用のアメ類やお菓子類の充実も見られ、子ども達が島に多くなった影響もあるのかと感じられた。

(3) 第3日目 平成28年7月23日(土) 国後島2日目 天気:曇り

5:45～ 7:00 朝食(友好の家)

(AとBグループに分かれる)

Aグループ

7:15～ 7:45 消防署視察(説明:セルゲイ隊長代理)

8:15～ 9:05 布人形作り体験(体験指導:マリア氏)(友好の家)

Bグループ

7:15～ 8:15 布人形作り体験(体験指導:マリア氏)(友好の家)

8:25～ 9:00 消防署視察(説明:セルゲイ隊長代理)

(A Bグループ合流)

9:25～11:15 住民交流会(文化会館)

9:25～10:10 ①空手演舞(島側)・柔道教室(訪問団側)

10:20～11:15 ②意見交換会(テーマ:家族の価値観/3グループ)

11:20～12:10 昼食(友好の家)

12:15～15:00 ホームビジット(12家庭)

15:15～16:20 夕食交流会(友好の家)(ヴィシロワ「南クリル」地区副議長ほか)

16:55～17:40 はしけ移乗、帰船(2グループ)

17:45 色丹島・穴澗湾に向け出航(船内泊)

22:05 色丹島・穴澗湾着、投錨

●消防署視察



セルゲイ隊長代理による説明

- ・4年前に新設、所員32名
- ・救急車両は病院、交通事故は警察が対応
- ・消防車3台、救命車両1台、海難事故用車両1台
- ・消防士は尊敬される職業
- ・年出勤回数は250程度、不注意な出火が主
- ・1日出勤(24時間勤務)、3日休みの勤務体制

●布人形作り体験

友好の家にてマリア氏による体験指導。布の端切れを利用して人形を作成。冬の長い時にロシア人が、室内でする人形作り。赤ん坊を抱いている、子どもを大切にする母親。その人形を見て心が安らぐ。民間交流で分かり合える最たるものであった。出来栄えについては記録せず。



●住民交流会(文化会館)

①空手演舞(島側)・柔道教室(訪問団側)



今回は、武道での交流となり、島側は空手、訪問団側は柔道を紹介することとなった。

空手はここ国後島に伝播していた。練習の号令はすべて日本語で行われていたので印象的でした。



訪問団側から、今回交流指導員で参加した大分県の川内谷団員（大分工業高等専門学校教授）から、柔道の説明と柔道の技、練習方法、子どもとの交流では、自分を守るための受け身、簡単な技について実技指導を行った。実技指導の受けは、同じく大分県の奈良団員にお願いした。

畳と違って、ふかふかのマットであったため、足腰が安定せず難しかったが、それでも美しい技が披露できたのはさすがであった。

②意見交換会



「家族の価値観」をテーマに3グループに分かれて意見交換。

これまで、島でも3世帯同居が結構当たり前であったが、日本人同様核家族化が進み、特にこの島ではその状況は顕著。子育て、特に若者のしつけの面で悩む家庭が多いようであった。



●ホームビジット

12家庭に受け入れていただいた。どの家庭も温かく迎え入れていただき、手作りの食事等でもてなしていただいた。

ホームビジットでの会話で理解できた住民の考え方

- ・ 高校までここに住んでいて、本土に働きに行ったが、ここは住みやすい。特に子育てをする場合には、いろいろと優遇があってよい。
- ・ これまで住んだことはなかったが、子育てするのに環境がいいと聞いたので移住してきた。結果的によかったと考えている。
- ・ 交流事業で日本人ともっと友好を深めたいと思っている。領土の問題は、お互いの政府が決めることなので、一市民としては何も言えない。
- ・ 島は、建設等の仕事がたくさんあり、生活基盤もしっかりしてきたので、今まで住んでいたところより快適である。

●夕食交流会

ヴィシロワ「南クリル」地区副議長ご夫妻ほか国後島在住のロシア人が友好の家に集まって、夕食交流会を行った。

島側の司会で、歌の出し物等歓迎していただいた。これまで交流で培ってきた友情を深めることができた。



(4) 第4日目 平成28年7月24日(日) 色丹島 天気：晴れ

7:10～ 7:20	穴澗湾棧橋に着棧・下船
7:40～ 8:10	「行政府」幹部訪問 (メトコ穴澗村長、ゴンチャローワ斜古丹村副村長)
8:20～ 9:05	スポーツ交流(ヨーヨー)
9:15～ 9:35	斜古丹へ移動
9:40～10:10	斜古丹墓地墓参、「北方領土語り部」得能氏による在島当時の説明
10:10～11:45	穴澗へ移動、昼食(レストラン「インペリアル」)
(AとBグループに分かれる)	
Aグループ	
11:55～12:25	図書館視察(説明：イスポワ司書)
12:35～12:55	発電所(人道支援)視察(説明：ワシレンコ発電所所長)
12:55～13:35	小中高等学校訪問(説明：ワシレンコ校長代理)
13:40～14:00	消防署視察(説明：イワン班長)
Bグループ	
12:00～12:20	発電所(人道支援)視察(説明：ワシレンコ発電所所長)
12:35～13:05	図書館視察(説明：イスポワ司書)
13:10～13:35	消防署視察(説明：イワン班長)
13:45～14:10	小中高等学校訪問(説明：ワシレンコ校長代理)
(A Bグループ合流)	
14:05～14:50	商店視察
15:10～16:35	夕食交流会(レストラン「インペリアル」)
17:10	帰船
17:25	国後島・古釜布へ向け出港
21:35	古釜布湾着

●穴澗湾入湾



前夜、元島民の得能氏から湾に入る所から美しいので是非甲板で見て欲しいとの連絡が全団員にあったので、全員で東洋の箱庭と呼ばれる色丹島の自然を観察しながら下船の準備を行った。

湾そのものが、俗に言う巾着型をしており、津波や台風にも強いことから、太平洋の避難地にもなっている。

●「行政府」幹部訪問

メトコ穴澗村長、ゴンチャローワ斜古丹村副村長の臨席のもと、歓迎式を行ってくれた。



穴澗の文化会館ホールで、島民も出席する中、全団員に対して、非常に友好的なムードで歓迎していただいた。これまでの交流や人道支援等の蓄積のおかげであろうと感じた。



●スポーツ交流 （ヨーヨー）



交流指導員で参加した大分県の増田団員がヨーヨーを披露した。

内容は、第1部はヨーヨーの遊び方と簡単な実技、第2部は色丹島に住むロシア人、特に、子ども達に対するヨーヨーの基礎教室、第3部は増田団員によるヨーヨーパフォーマンスとした。

島の至る所に、本日のヨーヨー交流の壁新聞やポスターがあったことが、島の歓迎を表していた。

●斜古丹墓地参

「北方領土語り部」得能氏による在島当時の説明。

元島民の声や気持ちを、その島で聞くことができ、得能氏の気持ちが伝わってきた。遠くから返還と叫ぶ人、自分の故郷に年に1・2回来ることで故郷をかみしめている人、自分たちの墓地をきれいに管理してくれている色丹島在住のロシア人の存在、いろいろなことが、得能氏の説明から脳裏をよぎる。

この場に立ってはじめて分かることもあった。



●図書館視察



イスボワ司書から説明を受ける。

- ・1994年の人道支援で作られた日本式の倉庫を改良して運営
- ・当初は石油ストーブであったが今はエアコンが整備
- ・館長と3人の司書で運営。文学作品を中心に蔵書
- ・子どもから青年までが主な利用者、子ども連れの利用者も
- ・インターネット環境も整備している
- ・2階は、集会所としても利用している

●発電所（人道支援）視察

ワシレンコ発電所所長より説明を受ける。

- ・以前のものが火災で使用不能となる。
- ・1999年の人道支援で建設、ディーゼル発電
- ・穴澗の全住宅に電気を供給している。
- ・3機あり、通常は2機が稼働、1機が予備
- ・日本の機械は、安全で燃費が良い。
- ・風雪が厳しいので送電線は地下



●小中高等学校訪問



ワシレンコ校長代理の説明

- ・ 2006 年に完成、教師は 18 名で 230 名受け入れ可能だが、1～11 年で 120 名の児童生徒
- ・ 優秀な生徒の奨学金制度が充実、学習優秀者が多い
- ・ 運動場なし、運動は室内競技中心

穴澗の学校が開校した時に、得能氏ら元島民の皆さんから送られた記念の額、学校に大切に飾られている。「友情」これができるまでには長い年月があったことだろうと推察した。



●消防署視察



イワン班長による説明

- ・ 2013 年開設、20 名で勤務
- ・ 2 台の消防車、高い建築物がないのではしご車はなし
- ・ 月 1 回程度の出動、冬場 4・5 回の出動
- ・ 日本人の消防団的な組織もある。
- ・ 水は消火栓網を設置している
- ・ 地震、津波の訓練を、地域を学校をあげて行う

●商店視察



商店では、土地柄か、真夏でも冬用のコート類が所狭しと積み上げられていた。商品の品揃えが、国後より充実しているような印象を受けた。これまで、生活必需品はあまり選択の余地がない品揃えであったが、歯ブラシだけでも 30 種類以上あったので、日本と変わらない感じがした。逆に、ロシア製・韓国製・中国製・日本製等々はこちらのほう在选择肢が多くなっている。特に、酒類はビックリするくらい多様で、値段も多様。

●夕食交流会（レストラン「インペリアル」）



メトコ穴澗村長を招いての夕食交流会。

ロシア人の歓迎方法と、レクリエーションゲームを理解したが、慣れるまでにはいかなかった。

村長とゆっくり話をしてみると気さくな人で、大分県の学校は雪が積もったら学校は休校だという話をすると、ロシア人の学校では年間半分以上が休みになる。マイナス 30℃ 以下になった場合のみ休校とするなどの世間話に花がさいた。

(5) 第5日目 平成28年7月25日(月)

天気：曇り

7:00～ 8:30	出域手続、事務打合せ（船内）
8:30	根室港へ向け出航
8:45	解団式
10:50	通過点（N43° 28′ ／ E145° 46′ ）
12:00	根室港（琴平町岸壁）入港、事務手続、下船
12:45	解散（千島会館）
13:00～13:30	代表者記者会見（千島会館）

●解団式

○団長挨拶

- ・団の行動目標の「友好」「信頼」が果たせたか
- ・団員から、また行きたい、家族を連れて行きたい、自由に行きたい、ここに住みたい等のお話を聞いたが、なぜその願いが叶わないのか、真剣に考えてみたい。
- ・十分に団長としての務めは果たせなかったが、団員の協力に感謝している。

○団員

- ・友好、親善の目標を考えて行動することを心掛けた。目標は達成できた。
- ・今回の訪問を通して領土返還について決意を新たにした。

○団員

- ・島の現状、島民の願い、日本の将来を考え、領土の返還に対する決意を新たにした。
- ・現地を見て、難しさも感じた。色丹が、国後のようにならないうちに何らかの方策が必要と思った。

○団員

- ・島側は、水産業・観光・温泉療法に力を入れている。今回は、人が住んでいる地域のための訪問であった。他の訪問先も検討する時期に来ているのではないか。

○団員

- ・島側のペースで行動。日本側の主体性が弱い。

○団員

- ・交渉が動いていたことを肌で感じた。（行政府の言動等から）
- ・国後と色丹の扱いが著しく違う。公共投資の量と質が明らかに違う。

○団員

- ・子ども達との交流は有意義であった。スポーツは万国共通である。
- ・豊がなかったことが悔やまれる。

○団員

- ・国や言語は違ってもコミュニケーションは取れる。
- ・夏休みで子どもの数が少なかったことが残念だった。

○団員

- ・この事業は多くの人の知恵で運営されている。
- ・多くの元島民をはじめとする意見は、この事業の継続を望んでいる。
- ・元島民として皆様の理解と協力を切に願う。

●代表者記者会見（千島会館）



訪問した感想と、島の現状についての質問があり、それぞれが回答した。